

## SG講演会④-2

日時 平成28年5月12日(木) 5校時(14:05~15:05) 後半  
場所 丸亀高校 武道館(柔道場)  
対象 丸亀高校 1年生279名、教員15名  
講師 關谷 武司 氏(関西学院大学国際学部 教授)  
演題 「スーパーグローバル大学における学生教育」  
内容等

「多くの日本人は欧米しか頭がない。本当の世界=欧米ではないので、欧米以外を見ないと本当の世界も自らの日本も分からない」という言葉や「やりたいことは何ですか」「なぜそれをやりたいの」…と言う「自分探しの9つの質問」に対するアフリカの14歳の小学生の回答から、生徒は、世界を見ることで日本を見ることや自分自身の意識を変えることの必要性を実感したようであった。

与えられた情報を鵜呑みにするのではなく、自ら情報を求め、分析検討し、己の判断を形成するという「能動的学習の体得」が必要であること、「国際ボランティアプログラム」において、本当の世界で実践した成果として「外国語力・コミュニケーション能力」だけでなく、「主体性・積極性・責任感」「チャレンジ精神」「異文化理解と日本人としてのアイデンティティ」などが単なる留学では見られないほど向上することに、生徒は、グローバル社会で活動していく自分達には、「自分で考え、行動を起こし、事を成すこと」、「自分で歩くこと」が必要であることに気づいたようである。



### 生徒の主な感想

- ・世界を知ることによって日本を知り、日本を知ることによって自分が分かることを理解できた。
- ・「世界に出て、世界を見て、日本を理解して、日本に帰ってくる」という最後の言葉に感動した。
- ・世界を知ることによって改めて日本の良さなども分かり、地元を大切にすることができると思う。
- ・世界に対する視野をもっと広げたい。日本という平和な国の殻の中に閉じこもっているのは、真実を何も見出せないと考えた。 ・海外への留学の意義を今までより理解できた。
- ・関係ないと思っていた国際貢献と地方創生が結びついてびっくりした。
- ・国際貢献をして得た「行動力」を地方創生に生かせないかと思った。
- ・アフリカの子と自分の答えとの差にびっくりした。いかに自分が自分のことしか考えていないのかに気付いた。 ・自分が今の環境に甘んじていることが情けなくなった。
- ・私たちは学習ができる環境が整っていて、それがいかにありがたいか実感した。
- ・世界には人のために誰かのために生きようとする人がたくさんいる。自分は仲間のために地域の人のために国のために何ができるだろうか。その答えを出して海外に渡りたい。
- ・国連海外ボランティア活動に参加していた大学生は笑顔がまぶしくて、やりたいことをやるってすごいことだと思った。 ・世界の人とつながるってすごいと思った。
- ・ボランティアを通して、いろいろなことを体に刻み付けることができ、成長できると思った。
- ・もっと情報を集めて、1つのテーマについて自分の考えを持ってないと、世界の人々と渡り合えないことに気付いた。 ・客観的思考が重要であると分かった。
- ・自分のことだけでなく、人のために尽くせる人になりたいと思った。
- ・自分で考えて判断する。そして、自分で歩いていける人になりたいと思った。
- ・もっと英語、頑張らなくて。 ・英語は苦手だが、コミュニケーションが大事だと分かった。